

# 予算要求資料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

## 事業名 ホストタウン交流推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 地域スポーツ課 スポーツ交流係 電話番号：058-272-1111(内2618)

E-mail：c11172@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 21,591 千円 (前年度予算額： 11,422 千円)

### <財源内訳>

区分	事業費	財源内訳							
		国庫支出金	分担金負担金	使用料手数料	財産収入	寄附金	その他	県債	一般財源
前年度	11,422	0	0	0	0	0	0	0	11,422
要求額	21,591	0	0	0	0	0	0	0	21,591
決定額	21,591	0	0	0	0	0	0	0	21,591

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、ホストタウン交流を推進し、令和3年度は、カナダ(陸上・パラ陸上)、オランダ(ホッケー)の事前合宿が本県で実施され、練習公開やオンライン交流などオリンピック、パラリンピアンとの交流が行われた。
- ・今後も、ホストタウン交流で築き上げたホストタウン相手国・メダリストなど海外トップ選手との関係を活かし、引き続き、海外選手の合宿誘致やオンラインも含めた交流を推進、継続していく。
- ・2024年には、新型コロナウイルスの影響で2度延期した世界パラ陸上競技選手権大会が神戸で開催され、さらに、2025年には世界陸上選手権大会が東京で開催されることか、両大会においてカナダ選手団の合宿誘致を行う。
- ・また、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアでのプレキャンプが実現しなかった、ホストタウン相手国であるイギリス、フランス、アメリカの選手団の合宿誘致を行う。
- ・加えて、東京パラリンピック開催により高まったパラスポーツへの関心を一過性のものにせず、さらに関心を高め持続していくために、パラスポーツやパラアスリートとの継続的なつながりを作り出していく。

### (2) 事業内容

- ・事前合宿誘致、受入れ
- ・ホストタウン交流事業
- ・カナダパラ陸上選手団受け入れに向けた心のバリアフリー推進事業

### (3) 県負担・補助率の考え方

・「清流の国ぎふ」創生総合戦略及び「第2期清流の国スポーツ推進計画」に基づき、合宿湯地による地域ブランドの確立と交流人口の拡大による地域資源を活かしたスポーツによるまちづくりと地域活性化を図るため、県費での負担は妥当。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	355	職員旅費
需用費	194	土産品等消耗品
対外交流費	360	懇談会経費
役務費	250	翻訳料
委託料	20,432	合宿誘致、ホストタウン交流経費等
合計	21,591	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画 IV地域資源を活かしたスポーツによるまちづくり

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ホストタウン交流が、東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとなるよう2024年パリオリンピック・パラリンピック及び2025年世界陸上選手権大会まで海外トップ選手の合宿を誘致し、海外トップアスリートと地域との交流を継続させる。特に、パラアスリートとの交流を通じた心のバリアフリーの推進を図り、スポーツを通じた共生社会に向けた取組を進める。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①交流件数（累計）	10回	3回	2回	3回	25回	72.0%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・ <b>事業の必要性</b> (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)  <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後にこの施策をどう活かしていくかは、大きな課題であり、取組を一過性にせず、ホストタウン交流で築いた関係をさらに深めていくことが重要。</p>
<p>・ <b>事業の有効性</b> (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)  <small>3：期待以上の成果あり                  2：期待どおりの成果あり                  1：期待どおりの成果が得られていない                  0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 3	<p>前年までの相手国との交流を活かし、新たに交流の継続を実施することができた。また、パラリンピアンとの交流により、連携校の子どもたちに対し、共生社会への理解を深めることができています。</p>
<p>・ <b>事業の効率性</b> (事業の実施方法の効率化は図られているか)  <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>相手国の選手との交流やパラリンピアンの事業への参加により、体験することでより深く学びを提供することができています。</p>

### (今後の課題)

<p>・ <b>事業が直面する課題や改善が必要な事項</b>                  各国の代表チームは多忙であり、文化も違うため、緊密な連絡を取り合うことが難しく、連携する学校の計画どおりの調整が難しく、直前に多くの調整が必要となる。次年度以降も合宿誘致や交流継続に向け、相手国との関係をさらに深め、緊密な連絡・調整する体制を築く必要がある。</p>
---

### (次年度の方向性)

<p>・ <b>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b>                  「清流の国ぎふ」創生総合戦略及び第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画に基づいた取組みであり、交流人口の拡大がみられたため、今後も事業を継続する。</p>
--

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p>	